

<保存血清の使用について>...

当科では、パーキンソン病などの神経疾患に対する遺伝子治療を開発しています。治療用の遺伝子を脳内の神経細胞に導入するためにアデノ随伴ウイルス (AAV) という非病原性のウイルスを使用しますが、血液中にこのウイルスに対する抗体 (AAV 抗体) を多く持つ人では、遺伝子治療の効果が弱くなる可能性があります。これまでに神経疾患患者の AAV 抗体の保有状況は報告がなく不明です。そこで、当科に以前、入院した方の長期保存血清で、今後、診療目的で使用する可能性がないため廃棄予定となった試料を使用して、AAV 抗体の保有状況を調査する研究を実施します。具体的には、2004 年 11 月から 2006 年 11 月までの 2 年間に入院された方のうち 73 本の血清について測定予定です。結果は、専門の学会・学術誌等で報告致します。なお、本研究では、年齢、性別、病名と、抗体の保有状況を調べますが、個人が特定される情報が公開されることはありません。上記 2 年間に当科に入院された方で、ご自身の検体の測定に同意されない場合には対象と致しません。その際には、研究責任者(村松慎一：電話 0285-58-7352)まで御連絡ください」